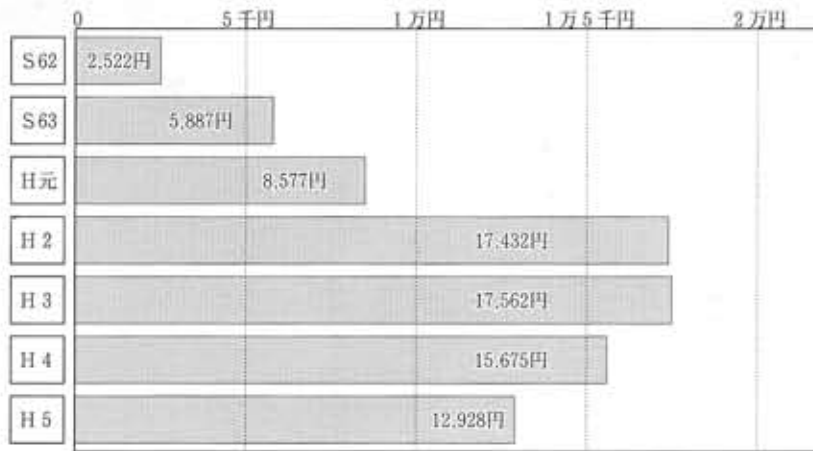


# 一般会計からの繰入の状況

## ◆ 1人当たりの一般会計からの繰入金の推移 ◆

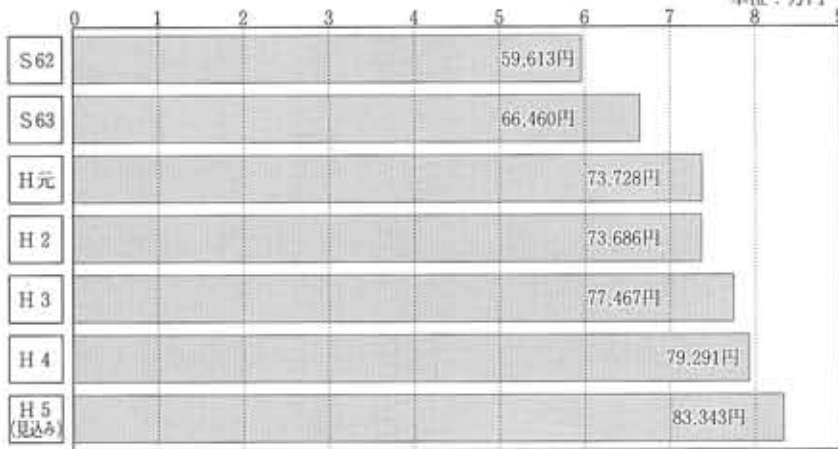
市税などから国保会計へ補助を行い、保険料の負担を軽減しています

平成2年度から繰入額が大幅に増えたのは、累積赤字(平成元年度末で2億7600万円)の解消と毎年の収支不足額を補てんしたためです。また、一人当たりの保険料は、年々増え続ける医療費に対応して、その負担割合が増え、保険料も高くなってきています。



## ◆ 1人当たりの保険料(調定額)の推移(現年分) ◆

単位: 万円



### 保険料の推移

# 市民が育てる国民健康保険

# 年々減少する国保加入者



## 向日市の国保の現状

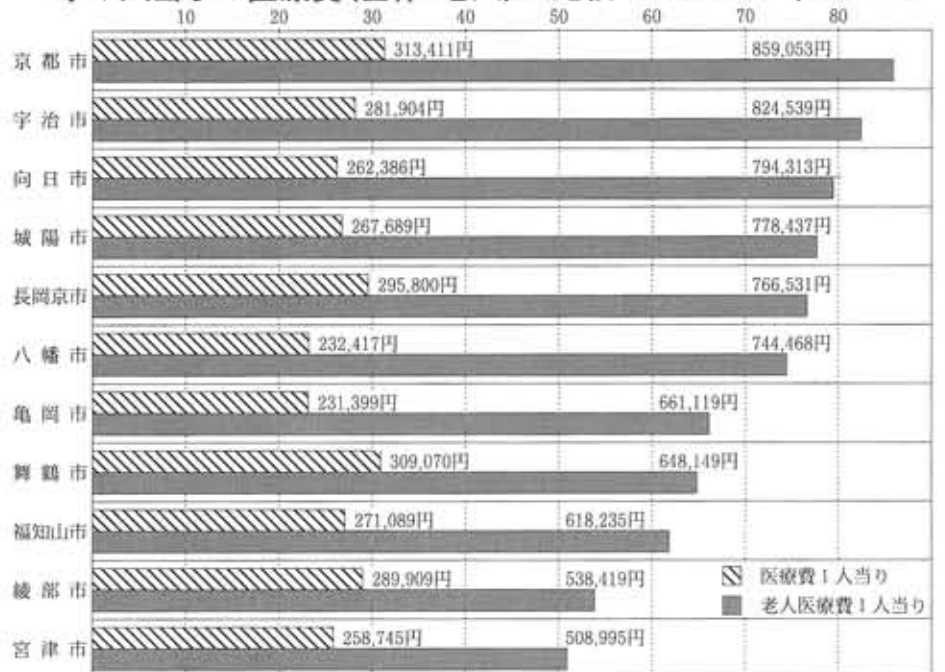
向日市の国保加入者は、昭和61年当時11962人(内、若人9480人、老健1426人)でしたが、平成5年2月末では11386人(内、若人7980人、老健1970人)と、全体では、576人減っています。その内、70才以上の方の老健は544人増えていますが、60才未満の若人が1500人も減少しているのが現状です。

また、医療費は毎年増加し続け、国保事業の運営は、非常に厳しくなっています。昭和61年以降、国保会計の収支は赤字が続いています。

このようなことから、市では、国保財政の健全化に向け、次のような努力を行います。①一般会計(市税など)から国保会計への補助を大幅に増やしました。②医

## 府下11都市1人当たりの医療費(全体・老人)の比較(平成3年度)

### ◆ 1人当たりの医療費(全体・老人)の比較(平成3年度) ◆ (単位:万円)



京都府下11都市の一人当たりの医療費を比較すると、全体では、8番目と比較的低い順位ですが、老人保健に限ってみると、3番目となっています。



療費通知の回数を4回から6回に増やしました。③レセプト(診療報酬明細書)点検の強化・充実を図りました。④保健施設事業(ヘルスパイオニアタウン事業)を充実させ、健康の保持と増進に努めました。⑤医療費の増加に見合った保険料の改定を行い、給付と負担の公平化に努めました。

以上の結果、平成3年度末には、累積赤字が約1500万円に縮小することができ、平成4年度末には、累積赤字は解消できる見込みです。